

しまねっ湖



ズナガニゴイ *Hemibarbus longirostris*

全長15～20cm。「頭長似鯉」の名前のおり頭部が長いニゴイのなかまです。島根県では県西部を流れる河川の中流域に生息しています。流れが緩やかな川底近くをゆっくりと泳いでいますが、驚くと砂の中に潜って体を隠します。体色はうすい黄色で、体全体に黒い小さな斑点があります。体の側面にある金色のラインは太陽光に照らされるとたいへん美しく輝きます。

(中野浩史)



No. **80**
2024. Autumn

CONTENTS

第 57 回特別展報告	2
ゴビウスのなかまたち / こらまたなんだら	3
イベント報告	4

島根県立
宍道湖自然館
ゴビウス
第57回 特別展

いそ あそ
磯遊びの
ススメ

7月10日(水)～9月2日(月)に第57回特別展「磯遊びのススメ」を開催しました。今回の特別展では、磯にくらす生きものたち約30種類を展示し、磯遊びに関することを楽しみながら学ぶことができる内容としました。夏休みの自由研究として使えるような、磯で見られる生きものたちを使った実験などをパネルで紹介し、子どもたちに好評をいただきました。また、磯遊びを安心安全に楽しんでもらうために、磯の危険生物として、刺されると激しく痛む毒を持つガンガゼやゴンズイ、ハオコゼを展示しました。その他、漁業権が設定されているため、見つけても採ってはいけない生きものとして、ムラサキウニやサザエ、マダコなども展示しました。



毒を持っているガンガゼ・ゴンズイ・ハオコゼ

今回の特別展のメインとして、普段はザリガニとふれあえるタッチプールを、ヒトデやウニ、ナマコなどとふれあえるようにしました。いつものゴビウスとは一味違うタッチプールに、リピーターのお客様たちも驚かれていた様子でした。今回、展示した生きものは、飼育スタッフが磯に出かけて採集したのも多くいます。場所によって見られる磯の生きものが変わるので、準備期間中はいろいろな磯に出かけて集めてきました。その中でも一番苦労した生きものが、ヤドカリです。展示したいヤドカリを探していたのに全然見つかりません。やっとの思いで見つけたときは、とても嬉しく、この瞬間は飼育スタッフにとって数ある醍醐味のひとつだと感じました。

毎週土日祝日に、あそびっ湖まなびっ湖ひろばで開催している「飼育係のとおきの話」では、タッチプールでヒトデやウニの実験と解説、展示水槽のエサやり解説を行いました。



タッチプールで開催した「飼育係のとおきの話」

ヒトデの実験では、体を棒で囲み、それから抜けたす脱出実験やひっくりかえして起き上がるまでの様子をみなさんと観察しました。また、展示水槽でのエサやり解説では、エサを与えたときのカエルウオやホシギンポなどの動きや、ワカメやキャベツを食べるムラサキウニやサザエなどを観察してもらいました。

(森永和希)



ワカメを食べるムラサキウニ



ゴビウスのなかまたち

淡水のなかま ニホンイトヨ

ニホンイトヨは、背びれや腹びれなどに鋭い棘を持つ魚です。島根県では「ケンザッコ」や「エラチ」とも呼ばれることがあります。近年、河川改修工事などの生息環境の悪化などで個体数が減っており、改訂しまねレッドデータブック2014では絶滅危惧I類に選定されています。

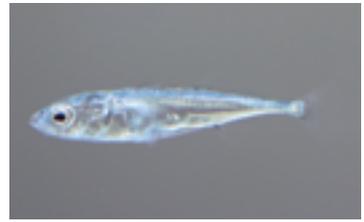
ゴビウスでは、毎年ニホンイトヨの繁殖に取り組んでいます。春頃になると展示水槽では、赤と青の鮮やかな婚姻色をしたオスが水草などでトンネル型の巣を作り、そこにメスを誘って産卵



トンネル型の巣に産んだ卵

させ放精します。本来は、オスが巣にとどまり、ふ化するまで世話をしますが、卵にカビが発生することが多いため、今年の様子を見て受精卵を取り出し、人工でのふ化を行いました。

卵は、別の水槽に移して新鮮な水を送りながら管理しました。それでもカビが発生してしまうため、毎日水の交換とカビ防止の措置を徹底して行いました。ふ化が始まると5mmほどの稚魚が出てきます。次の日にはプランクトンを食べ始めるので、水質が悪化しない程度に与えていきます。秋頃には、成魚と変わらない姿に成長します。



ふ化してから3ヶ月ほど経ったころ



成魚

(逢坂香織)

こらまたなんだら! 其の三十一 ドンコ

夜、家の近くを散歩していた時の話です。職業柄、どうしても田んぼの横にある用水路に自然と目がいきます。夜の用水路にはどんな生きものがいるのかな?と覗いていると、メダカや小さなドジョウなどが、ちらほら見られました。楽しんで小魚を探していると・・・20cmくらいの顔の大きい、ずんぐりした体格の魚が行んでいるではないですか!

この魚、「ドンコ」という種類でハゼのなかまです。大きくなると25cmにもなります。ややこしいことに、東北地方などでは、「ドンコ」という名前は海水魚の「チゴダラ」の地方名としても有名です。

ハゼのなかまのドンコは、愛知県や新潟県よりも西の本州、四国、九州など、広く分布していて、川の下流など、流れが緩やかな場所で見かけます。夜に活動する魚ですが、まさか水深10cmくらいの浅い場所で見つけるとは思いませんでした。写真を撮るためにライトを照らしてもびくともしません。

もしかしたら、岩にでも化けているつもりなのでしょうか?おかげでじっくり写真を撮ることができました。

みなさんも機会があれば近くの用水路でドンコ探しを楽しんでみてください。

(佐藤 充)



用水路に佇むドンコ

7月27日(土)、年間パスポート会員を対象に、小型の地引網を使って宍道湖の生きもの調査を行いました。この企画は平成15年4月に一度行っており、今回は約20年ぶりの実施です。ゴビウスでは職員による生物調査も行っていますが、一般の方と一緒に調査は久しぶりなので、担当する私もとても楽しみにしていました。

調査地点は前回と同じく、宍道湖グリーンパークからおおよそ100m北の地点です。現在はヨシ帯がずっと続いているのですが、20年前はなんと砂浜がずっと続く環境でした。その前の宍道湖西岸はコンクリートでできた護岸が整備されていましたが、湖の水質改善や生態系の回復を目的に、生きものがくらしやすい多自然型湖岸堤へ改修が進められました。20年前はちょうどその多自然型湖岸が完成したところです。



1997年冬 コンクリート護岸



2003年春 多自然型湖岸



2024年夏 現在の湖岸のようす

続いて前回の採集生物を紹介し、どんな生きものがいたのかな?とワクワクしながらファイルを開くと、地引網による採集生物はボラとアシシロハゼの2種類だけでした。多自然型湖岸堤へと環境が変わりましたが、ここ数年の宍道湖の夏の水温は30℃を超えることもあり、きびしい環境のように思います。今回の調査で果たしてどのくらいの生きものが採集できるのか、少し不安を抱えて当日を迎えました。

当日は抽選で選ばれた21名のみなさんが準備万端で湖岸に集合しました。今回使用したのは網幅が5mほどの小型の地引網です。網の仕組みと使い方を解説したのち、いよいよ網を仕掛けます。網を持ったスタッフが遠浅の沖へどんどん進みます。参加者も湖底の泥に足をとられつつ、スタッフのあとに続いて湖へ入っていきました。宍道湖に入るのは初めてという方ばかりで、「水がぬる〜い」、「石がヌルヌルしてすべる!」、「湖底の泥に足がはまって動けない!」など宍道湖の環境を楽しく満喫している声があちこちから聞こえてきました。網を引く合間には、岸辺でたも網を使った採集も行いました。



みんなで網を引いています

採集後は涼しいゴビウスへ戻り、生きもの名前調べです。担当の心配をよそに、ハゼ4種(シモフリシマハゼ、アシシロハゼ、シンジコハゼ、マハゼ)、スジエビ、ニホンイサザアミを採集することができました。ハゼを見分けるポイントをスタッフが解説すると、参加者のみなさんはさっそくハゼの顔をじっと観察していました。また、塩分や水温など宍道湖の水質に関する質問もありました。



採集した生きものを観察中

参加者からは、季節を変えて地引網調査をやってみたいという提案もあり、宍道湖の魅力に引きつけられたように感じました。

ゴビウスではこれからもみなさんと一緒に生きもの調査などを行っていきたくと思っています。

(宮永 桜)

※今回の調査は、宍道湖漁業協同組合の同意のもと、鳥根県より特別採捕許可を受けて実施しました。

ゴビウスニュースレターしまねっ湖 No.80

発行日/2024年10月15日

発行/鳥根県立宍道湖自然館ゴビウス

(指定管理者:公益財団法人ホシザキグリーン財団)

〒691-0076 鳥根県出雲市園町 1659-5

TEL 0853-63-7100 FAX 0853-63-7101

URL www.gobius.jp/ E-mail gobius@gobius.jp

■動物取扱業に関する表示

氏名または名称:公益財団法人ホシザキグリーン財団

事業所の名称:鳥根県立宍道湖自然館

動物取扱業の種別:展示

登録番号:第073102040号

登録年月日:2007年5月17日 登録有効期限:2027年5月16日

取扱責任者:佐藤 充